



(1) Common Nexus

東海国立大学機構が名古屋大学東山キャンパスに設置する学生、企業、市民らの交流施設。名古屋大学駅から中央図書館までのスペースに位置し、地下1階・地上1階、約7000㎡の建物。名称は、それぞれの個性を持った個人/団体が集い、出会いや交流、お互いの協力によるつながりが生まれることで、一つの共通の場（＝Common Nexus）を形作りたいとの思いが込められており、愛称ComoNe（コモネ）は学生の投票により決まった。

(2) ディープテック・シリアルイノベーションセンター

学部から大学院博士課程まで階層的に大規模で学際的なアントレプレナーシップ教育を行う。単なる「起業家育成」の教育ではなく、企業人、研究者、全ての社会人に必要な基礎力育成を目的とする。学部生向けカリキュラムとして1年次には「アントレプレナーシップ初歩」、2年次には「社会課題解決とアントレプレナーシップ」「イノベーション基礎」「シリアル・イノベーション」といった科目が用意されている。

(3) 戦略的パートナー大学

双方向の連携活動を互恵的に推進する海外の有力大学で、名古屋大学の国際展開の拠点となる。ノースカロライナ州立大学、シンガポール国立大学の他にも、23年11月に独フライブルク大学と戦略的パートナーシップ大学協定を締結し、グローバルキャンパス準備室が設置されている。また24年7月に英エディンバラ大学とも協定を結んだ。名古屋大学は大学院医学系研究科がフライブルク大学医学部と、理学研究科がエディンバラ大学理工学部との間で共同で学位を授与するジョイント・ディグリー協定を結んでいる。

(4) 総合型選抜

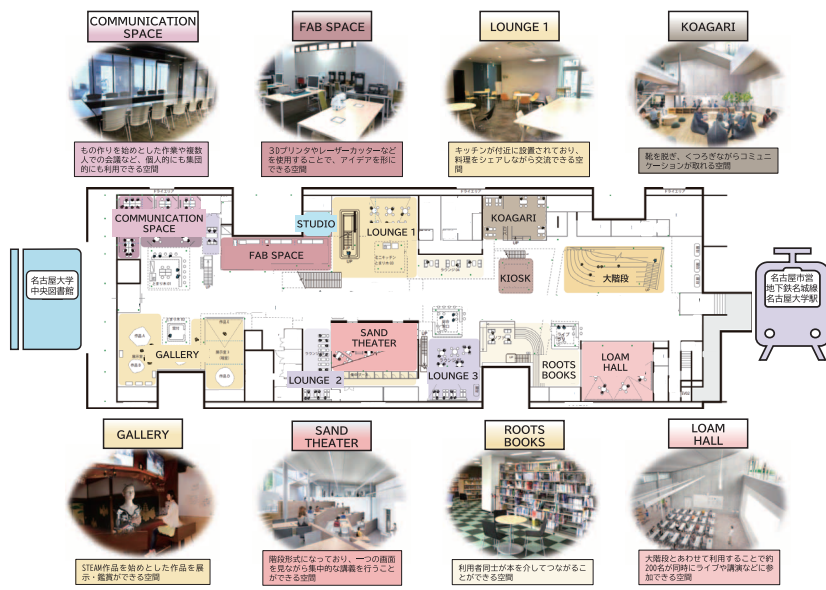
25年度入試（25年4月入学）で、名古屋大学として初めてとなる総合型選抜が理学部で実施される。大学入学共通テストを課す学科と課さない学科があり、前者は数理▽物理▽地球惑星科の3学科、後者は化▽生命理の2学科。5学科合計で定員は25人。理学部では1年次は学科に属さず、希望や成績などによって2年次から各学科に分かれるが、総合型選抜による入学者は優先的に合格した学科に進むことができる。

「これまで名古屋大学には大規模なコモンスペースがありませんでした。名古屋大学駅から大学の中心へ向かう学生の動線を作り、そこに教職員や企業、市民がつかうイメージです。研究者とアーティストとのコラボレーション展示やこの施設での活動を発表するマーケットの開催などを考えています。東山キャンパスの周辺には南山大学や京大、名城大学と大学が集中しており、それらの学生が集まれるスペースにもなります。大学を人々が「結びつく」場所にしたいと思っています」

「入試改革では「女子枠」が拡充チャレンジする若者をサポート」  
社会との連携から国際展開、そして教育・研究における分野融合まで、さまざまな次元で「垣根を下げる」努力が払われていることが分かります。まさにノーベル賞受賞者輩出の培地でもあった「梁山泊」の雰囲気

豊田講堂（登録有形文化財）

Common Nexus 2025年春開館予定



海外有力大学との連携グローバルキャンパスで国際的な経験を  
勇気ある知識人にとってもう一つ必要な要素は国際的な経験です。名古屋大学は22年度、新たな国際戦略である「グローバル・マルチキャンパス構想」を開始しました。23年3月に戦略的パートナー大学①と位置付ける米ノースカロライナ州立大学②の中に名古屋大学グローバルキャンパスが設置され、常駐スタッフが学生の相談を受けるなど留学を後押しする環境が整いました。その結果、23年度は双方で約1500人の交流実績が生まれています。  
「アジアではシンガポール国立大学にグローバルキャンパスを置きました。こちらは主にスタートアップ支援が目的です。向こうの優秀な大学生が、名古屋の企業やインタナショナルをしたり、名古屋大学からシンガポールへ研修する機会を提供するなど、互いに行き来して学べる体制が実現しつつあります」（杉山総長）

データ駆動型研究を核とした「融合研究」  
研究分野創出の取り組みにおいては、分野の壁を超えた融合研究とデータサイエンスの活用がすすめられています。2024年4月には、文系分野のデジタルデータ駆動型研究を推進するために、デジタル人文社会科学研究推進センターが発足しました。また文系・理系の枠を超えた取り組みとして、ヒラミッドをミュー粒子によって透視する試みや、歴史的文献から激甚太陽風など太陽活動の情報を得る取り組みも大きな成果をあげています。「全く新しいサイエンスを作ろうと思うと、分野間の連携・融合がとても重要です。そのためには人と人のインタラクション（相互作用）を最大化する必要があります。中心に生きている若い人が加わり、切磋琢磨してくれることを期待しています。そういう空気が大学全体に充満することが大事です。そのため核になるスペースも作っていくつもりです」と杉山総長は話します。

をほうふつさせますが、そんな多様な人々による磨き合いの場とするために、名古屋大学は入試改革を進めています。23年度入試（23年4月入学）で工学部の学校推薦型選抜に新設された「女子枠」が25年度入試から拡充され、化学生命工▽電気電子情報工▽機械・航空宇宙工▽エネルギー理工の4学科で実施されます。また25年度入試では理学部が新しく総合型選抜④を実施します。  
杉山総長は受験生に向けてこんなメッセージを送ります。「入学式では私はいつも新入生に『失敗してください』と伝えます。失敗から学ぶことは重要で、世界初の青色LEDを実現し、赤崎勇先生と共にノーベル物理学賞を受賞した天野浩先生（名古屋大学卓越教授）は材料である窒化ガリウムの結晶化に1500回失敗したといっています。失敗しても諦めずにチャレンジし続けることは若者の特権でもあるし、我々はそれをサポートしたい。そういう勇気ある知識人を目指す人は、ぜひ名古屋大学と一緒に学びましょう」



すぎやま なおし  
杉山 直総長  
1984年早稲田大学理工学部物理学科卒業。89年広島大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了。専門分野は理論天文学。名古屋大学教授、東京大学数物連携宇宙研究機構主任研究員（兼任）、名古屋大学理事・副総長などを経て22年より現職。東海国立大学機構大学総括理事・副機構長。

2020年度、国立大学として初めて「1法人複数大学」の枠組みで岐阜大学とともに「東海国立大学機構」を立ち上げた名古屋大学は、前例主義にとられない自由闊達の学風で知られます。旧帝国大学のうち歴史は最も浅いですが、大学にゆかりのあるノーベル賞受賞者が6人もいるというのは、その表れでしょう。

杉山直総長は22年4月の就任時、名古屋大学を野心あふれる研究者が集まり、切磋琢磨する新たな「梁山泊」にする志を掲げました。多様性が生み出す知の相互作用は一大学の枠を飛び越え、他大学や地域社会、企業を巻き込み、さらには国際展開を通じて「大学」のかたちを拡張しようとしています。そこから孵化する「勇気ある知識人」の活躍に、大きな注目が集まっています。

# 名古屋大学

〒464-8601 愛知県名古屋市中千種区不老町 教育推進部入試課 TEL 052-789-5765 https://www.nagoya-u.ac.jp/

## 人と人との「相互作用」を最大化して足跡がついていない分野を切り開く開かれた大学に吹く自由闊達な学風

大学を「結びつく」場所へ新たな発信拠点が始動

名古屋大学には他大学のようなシンボルとなる「門」がありません。主要学部を置く東山キャンパスの真ん中に名古屋市営地下鉄名城線の名古屋大学駅があるので、誰でも自由に敷地に入ることができます。よく知られるように名古屋大学から6人もものノーベル賞受賞者が出た背景には、1939（昭和14）年の創立から受け継がれる自由闊達な学風があります。大学の内と外を分かたず門がないというのはどこか象徴的です。そんな開かれたキャンパスに25年春、ユニークな交流施設がオープンします。Common Nexus（コモネクサス）<sup>①</sup>と名づけられ、多人数で大画面を楽しめるホールをはじめ、料理をシェアしながら交流できるキッチン完備のラウンジなど、人が人が出会う、共創活動から新たな価値を生み出す仕掛けが用意されています。大学が企業や地域住民も巻き込みながら、新たな発信拠点を構える意義について杉山直総長はこう話

「これまで名古屋大学には大規模なコモンスペースがありませんでした。名古屋大学駅から大学の中心へ向かう学生の動線を作り、そこに教職員や企業、市民がつかうイメージです。研究者とアーティストとのコラボレーション展示やこの施設での活動を発表するマーケットの開催などを考えています。東山キャンパスの周辺には南山大学や京大、名城大学と大学が集中しており、それらの学生が集まれるスペースにもなります。大学を人々が「結びつく」場所にしたいと思っています」

課題解決に取り組みむことにより、リーダーシップや課題解決能力を養うものです。また、コモンスピックスとして数理・データ科学教育の強化、初修外国語（第2外国語）の改革が図られました。学部学生必修の数理・データ科学教育では、社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能の獲得を目指します。さらに、アントレプレナーシップ教育を25年度から全学部学生に必修化しました。ディープテック・シリアルイノベーションセンター<sup>②</sup>を拠点に、卓越した人材として社会に貢献しようとする心構えと未来への想像力と成果を出すための行動につながる幅広い視野と思考を学びます。全ての学生がこの「起業家精神」を得る必要があるのはなぜでしょうか。杉山総長は「AIが台頭する時代、オリジナリティーが出せなかったら人間の価値がない。実際に起業をする・しないに関わらず、社会で勇気ある知識人として活躍してもらうためには、課題に対してしっかりと目を開き、新しい価値を興していくアントレプレナー精神は絶対に必要だと思えます」と説明します。



ノーベル賞展示室